

皆様、こんにちは。

府中教会、アンドレアです

四旬節第三主日の福音は、イエスがエルサレム神殿から動物を売る者や両替をしている者を追い出したという有名な逸話を報告します。すべての福音書記者が伝えるこの出来事は、逾越祭が近づいていたときに起き、群衆にも弟子たちにも深い印象を与えました。

イエスがこの行為を行いながら述べたことばに耳を傾けたいと思います。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない」。そのとき弟子たちは詩編に書かれたことばを思い出しました。「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」（詩編69・10）。この詩編は、敵の憎しみによって引き起こされたきわめて危険な状況において助けを求める祈願です。イエスもご自身の受難においてこのような状況をこれから味わうこととなります。父と父の家に対する熱意は、イエスを十字架へと導くこととなります。イエスの熱意は、暴力を用いて神に仕えようとする熱意ではなく、自らを犠牲にする愛による熱意です。実際、イエスが自らの権威の証拠として与える「しるし」は、ご自分の死と復活です。イエスはいわれます。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる」。ヨハネは解説しています。「イエスのいわれる神殿とは、ご自分のからだのことだったのである」（ヨハネ2・20-21）

わたしたちはこのイエスの行為をどのように解釈すべきでしょうか。商人と神殿の権威者たちは、自分たちが誰に仕えているのかを見失っていた、あるいは誤解していたように思われます。私たちも同じような状態に陥らないように、どうやってそれを防いだらよいのでしょうか。

